

【ポスター発表】

社会福祉士養成教育における演習担当教員の専門職性の課題

—教師教育者の専門職性の枠組みからの検討—

○ 城西国際大学 氏名 小川 智子 (005659)

キーワード：社会福祉士養成教育・演習担当教員の役割・教師教育者の専門職性

1. 研究目的

2025年現在、福祉領域の人材確保は喫緊の課題である。離職率以上に入職率の低下が人材不足を加速させている¹⁾。専門職を養成する社会福祉士養成課程では、18歳人口の減少、賃金格差などの影響により福祉系の大学の学生数は減少している。一方で、社会福祉士養成教育では、2021年度のカリキュラム改訂を受け、社会福祉士の実践力育成が目指されている。特に、実習の事前・事後教育に携わる科目「演習」の演習担当教員は、実践現場と教育現場とを橋渡しする重要な役割を担い、教育力そのものが問われている。このような状況下で、演習担当教員は、演習を受けた受講生から、「演習で学んだ内容は、実習先では使われていない。この授業は学んで意味があるのか」と問われ、自己の役割が果たせていないと苦悩する。これらの演習担当教員が抱える困難性について研究した結果、演習担当教員集団として専門職性の開発の議論が十分になされていないことが示唆された²⁾。演習担当教員は他教科と兼務であるにも関わらず、担う役割が複数存在していた。そこで、本研究は、演習教育の論文に焦点をあて、教師教育者の専門職性の枠組みから、演習担当教員の専門職性について検討し、課題の特徴を考察することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

演習担当教員が抱える課題は、複数の役割遂行など教員養成の教師教育者が抱える課題と共通している。本研究では、教師教育者の専門職性に基づく役割と行動に関する統合的文献レビュー結果から導き出された、教師、研究者、コーチ、カリキュラム開発者、ゲートキーパー、仲介者の31の行動枠組み³⁾を分析枠組みとして適用した。

国立情報学研究所が提供する、国内学術論文検索データベース CiNii Article を検索エンジンとし、演習担当教員の指導要件が全てに規定された翌年の2010年から2024年までの15年間の論文を対象とした。「社会福祉援助技術」・「演習」、「相談援助」・「演習」、「ソーシャルワーク」・「演習」を組み合わせで検索し、合計195文献を抽出した（最終アクセス2024年12月25日）。重複している文献、他養成課程の論文を除外し、調査対象文献を選定した。本研究では、演習担当教員の行動が記載されている論文及び研究ノートを対象とした。その結果、25本を分析対象とした。分析方法は、理論から導き出された枠組みを活用する質的内容分析を採用した⁴⁾。論文に記載されている演習担当教員の行動の記述内容を抽出し、データとし、分析枠組みに分類、整理した。質的研究者のスーパービジョンを受け分析の妥当性確保に努めた。

3. 倫理的配慮

本研究は人を対象としない研究のため、研究倫理審査を受審しない。また、本研究の遂行にあたっては、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規定」、「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守した。本研究は、2024年度城西国際大学学長所管研究により実施し、開示すべき利益相反（COI）はない。

4. 研究結果

第1の「教師」の役割の8つの行動の内7つの行動が抽出された。学生を成人学習者として捉える行動、アクティブ・ラーニングを活用した指導行動、理論と実践とのジレンマを考えさせる行動などがみられた。第2の「研究者」の役割の11の行動の内3つの行動が抽出された。授業効果の検証、教員と実践現場との協働した研究活動などの行動がみられた。第3の「コーチ」の役割の4つの行動は確認できなかった。第4の「カリキュラム開発者」の役割の3つの行動の内1つの行動が抽出された。授業プログラムの開発などの行動がみられた。第5の「ゲートキーパー」の役割の3つの行動の内2つの行動が抽出された。評価基準に沿って評価する行動がみられた。第6の「仲介者」の役割の2つの行動は確認できなかった。

5. 考察

教師教育者の専門職性の枠組みから分析した結果、演習担当教員は6つの役割中4つの役割を遂行していることが把握できた。特に、教師という役割だけではなく、研究者、カリキュラム開発者、評価基準などを作成するゲートキーパーとしての行動がみられた。これは、演習担当教員が演習教育の実施だけではなく、演習教育の効果までを考え、演習担当教員としての専門職性を発揮した行動と捉えられる。

一方で、コーチと仲介者の役割を抽出することができなかった。コーチの行動には、教育機関内の調整などの行動が含まれる。また、仲介者の行動には、教育機関だけではなく、外部の機関との調整などが含まれる。科目「演習」が講義と実習とを循環させる中核の科目として位置づけられているのであれば、この2つの役割遂行についても担っている可能性が高く、さらに検討が必要であると考ええる。演習担当教員は、教育現場の講義担当教員及び実習担当教員、実践現場の実習指導者、実習に行った学生の中間に位置し、それぞれを繋ぐ役割を担うことも期待されている。今後の課題として、演習担当教員の専門職性を包括的に可視化し、教員自身が意識化できるような方策を検討する必要があると考える。

【参考文献】

- 1) 厚生労働省 (2024)「第2章人手不足への対応」『令和6年度版労働経済分析』146-214.
- 2) 小川智子 (2025)「(研究・調査報告)カリキュラム改訂にみる福祉系大学の演習担当教員の役割の課題の検討ー社会保障審議会議事録に焦点をあててー」城西国際大学大学院紀要第28号, 19-36.
- 3) Lunenberg, M., Dengerink, J. and Korthagen, F. (2014) The Professional Teacher Educator: Roles, Behaviour, and Professional Development of Teacher Educators (Professional Learning), Brill Academic Pub. (=2017, 武田信子・山辺恵理子監訳『専門職としての教師教育者：教師を育てるひとの役割、行動と成長』玉川大学出版.)
- 4) Flick Uwe (2007) Qualitative Sozialforschung: eine Einführung Vollst. überarb. und erw. Neuausg., Rowohlt Taschenbuch Verlag. = 小田 博志・山本 則子訳 (2011)「質的内容分析」『質的研究入門：「人間の科学」のための方法論』春秋社, 393-400.